



VOL.65

こんなに成長しました！

桂川幼稚園 園長 長野 陽一

学級通信の一部（9月13日号）を抜粋し、要約しました。一段と成長している子どもたちの様子をお知らせします。

ちゅうりつ組（3歳児30名）

一学期の発育測定では、怖がりながら体重計に乗っていました。二学期の測定では、怖がることなくスムーズに測定できました。

また、嫌いな食べ物を自分で一口食べてみたり、「ピーマン食べられたよ」と、嫌いなものが食べられるようになりましただ。「見て、全部食べたよ」と、弁当を完食したことに自信を持ち、うれしそうに教えてくれる子が多くなりました。



たんぼぼ組（4歳児30名）

夏休みに虫取りを楽しんだ子どもたちも多かったようで、園では虫探しに夢中です。夏休み前には虫を触ることを怖がっていた子も、怖がることなく捕まえるようになっていました。

バツタ、カエル、イトトンボ、セミの抜け殻が大人気です。セミの抜け殻を「ママに見せるん！」と、うれしそうに持ち帰る姿がほほえましいです。



ひまわり組（5歳児26名）

登園すると、すぐに遊戯室に行き、園長先生に補助してもらいながら、逆上がりの練習に取り組んでいます。はじめは、なかなか足が上がらず苦戦していましたが、腕の力もつき、少しずつできるようになっています。

「できた」と言うときの子どもたちの笑顔はとても素敵です。これからも、無理なく練習に取り組んでいきたいと思えます。

「桂川つ子」の文字は、桂川中学校美術部員がデザインしたものです。

家庭教育の手引きの活用②
 家庭でも読書の時間を

桂川町教育委員会
 指導主事 森 隆

昨年度、学校図書館協議会が全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況について調査を行い、次のような結果が出ました。

月に1冊も読まない児童生徒の割合
 （平成24年度）

小学校	4.5% (22人に1人)
中学校	16.4% (6人に1人)
高校	53.2% (2人に1人)

15年前の読書調査では、「月に1冊も読まない中学生が2人に1人、高校生は3人に2人いる」というショッキングな結果が出ました。それを受け、学校では、「10分間読書」等の読書運動に取り組み始めました。その成果もあってか、児童生徒の読書冊数は増加に転じ、昨年度の結果が示すように改善して来ています。しかし、家庭での読書状況は依然として厳しいものがあります。

は、さまざまなが言われていますが、なによりも「言葉や思いをイメージすることが出来る」ことが大きいのではないのでしょうか。

読み物は、文字を読むことで、自分の情景や状況を具体的にイメージしなければなりません。テレビ等の映像があふれ返っている今日、想像しなくても否が応でも情報が入ってきます。

しかし、この世の中には映像で表すことのできないものがたくさんあります。人の言葉や行動の奥にある「人の心（思い）」です。言葉からイメージする力が豊かであれば「すぐにキレたり」せず、人間としての世界を広げていくことができそうです。読書を楽しむ子に育てるには、本を「読まなきゃ」と構えるのではなく、のんびりと自然に読んでみようかなという気分になることが大切だと思います。

家庭でも、これまでよりもテレビの時間を少し減らして、「10分間読書」をする時間を設けてみては如何でしょうか。低学年では保護者による読み聞かせも時には効果的であろうと思います。本を通しての家庭でのコミュニケーションも図れるのではないのでしょうか。

週に一日くらいから始めて、なるべく毎日継続して習慣化していきけるように願っています。

